



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.17
令和4年2月3日
文責：校長 福島

「潤い」の中で育つ子供



「校長先生ー！」

下校時刻になると校長室の窓の外から元気な声が響きます。窓を開けると写真のような光景が毎日あります。1年生と集団下校前の楽しいひと時を過ごしています。「明日は節分ですね。」

「99+1は何でしょう。」「100です。」「じゃあ1+5は。」50年前にもこの問題あったなあとうれしくなります。たくさん話しかけてくれます。この時ばかりは10人の話を同時に聞き分けたという聖徳太子の耳が欲しいです。「気をつけて帰るんだよ。また明日元気においで。」という「はあい！」と手を振って集合場所に散らばっていきます。

子供たちは私に話しかけてここに来ます。積極的な子もいれば、ちょっと恥ずかしそうにニコニコして見ている子もいます。でもみんな楽しそう。自分たちの意志で集まっています。

昼休みに校長室に遊びに来る子もいます。きっかけは、私が入院しているときに手紙をくれたことでした。毎週木曜日に2~3人で来ていたのですが、今週こんな話をしてくれました。「しばらく遊びに来るのをやめようと思います。コロナが流行っているので、校長先生に迷惑をかけたらいけないと思って。」担任の先生の指導もあったと思いますが、それをかみくだいてこんな素敵な言葉にできることに感動しました。「コロナが落ち着いたらまたおいで。」笑顔で校長室を出ていきました。

担任の先生たちは「校長先生、お忙しいのに子供たちがお邪魔してすみません。」と頭を下げます。全然そんなことないですよ。私は子供たちとの触れ合いが楽しくてたまりません。触れ合う中で、どんな子供を育てるべきなのか考えています。

「潤い」の中で植物が自ら生長するように、自分で考えて主体的に行動する力をつけたい、そのためには安心できる環境が特に大切です。安心できる家庭で愛情というエネルギーを注がれ、ある程度の自由が保障された場で自分がやりたいことができる、そんな環境をつくりたい。

毎朝校門で子供たちを迎えますが、自分で歩いて学校に来るってすごいことだと思います。でも足が進まないときもあります。その気持ちを分かってくれる人がいるという安心が「潤い」です。「潤い」のある環境を整えれば、子供は自ら動くエネルギーをためていきます。

今日は節分。校長室の窓から「不安」という鬼がいなくなり、「潤い」という福がやって来るように豆をまきます。「鬼は外、福は内！」